

農業委員会だより

なんたん

No. **61**

令和 8 年 10 月号



農業委員会のうごき	2～3
まちかど通信	4
地域農業を支える	5
利用状況調査報告 他	6
委員紹介	7
なんたんあっちこっち 他	8

発行 南丹市農業委員会 編集 南丹市農業委員会広報委員会

〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

☎電話 0771-68-0067 ■E-mail co-nougyo@city.nantan.lg.jp

■FAX 0771-63-0654 ■URL <http://www.city.nantan.kyoto.jp/www/gove/145/index.html>



農業委員会のうごき

農業者等との意見交換会開催報告

7月13日に農業者等(7名参加)と農業委員会との意見交換会を実施しました。オブザーバーとして市農林商工部および京都府農業会議の現地推進役が出席し、参加者は自己紹介の後、2グループに分かれて「地域で目指す農業経営について」と「農業委員会や南丹市への意見について」という論点で意見交換を行いました。

農業者からは、次のような意見が出されました。①農業資材の経費や人件費が高く、農業経営が苦しい。②特にシカとイノシシの被害が深刻で対策が急がれるが、



▲2グループに分かれての討論

▲南丹市のふるさと納税返礼品には多くの農産物が採用されている



補助金を活用すると資材調達に時間が必要。③地域内で全く意見がまとまらず苦慮している。

市への意見としては①ふるさと納税を具体的にどう活用するか、農家に情報を降ろしてほしい。②若い農業者への支援を行ってほしい。③草刈りに関する支援体制を構築してほしいとの要望が挙げられました。

この意見交換会で出された意見を参考に、10月21日に南丹市長あてに「農地等利用最適化推進施策の改善に関する意見書」を提出しました。

(取材：平野 清久委員)

「南丹・農地なんでも相談会」開催報告・次回予告

8月7日、園部、八木、日吉、美山の4会場で農地相談会を行い、合わせて20件の相談がありました。そのうちの多くは、高齢化や後継ぎの転出で耕作ができなくなり農地を売るか貸すかしたいとの相談でした。過疎化の進行と農業経営の厳しさから、担い手不足が顕著になっていることが浮き彫りになりました。

農地を手放したい人がいる一方で、農地を取得したい借りたいとの相談も数件ありました。農地を売りたい人と買いたい人をうまくマッチングさせていく努力が益々必要になってきています。

農業委員会では個々の状況に応じて、買い手借り手探しに協力



▲上から、八木・日吉・美山会場の様子

次回、八木・美山は会場を変更し、2月19日開催予定です。農地に関する悩みは気軽に農業委員会へご相談ください。

(文章：野口 則彰委員)

南丹なんでも農地相談会

相談無料 予約不要

農地を売りたい、買いたい、借りたい、貸したい、など、農地に関する悩みを相談ください。

開催日：令和9年 2月19日(金)

会場：南丹市役所 2階庁舎 3F 10会議室(園部会場)
八木市民センター 1st 2nd 3rd 4th 5th 6th 7th 8th 9th 10th 11th 12th 13th 14th 15th 16th 17th 18th 19th 20th 21st 22nd 23rd 24th 25th 26th 27th 28th 29th 30th 31st 32nd 33rd 34th 35th 36th 37th 38th 39th 40th 41st 42nd 43rd 44th 45th 46th 47th 48th 49th 50th 51st 52nd 53rd 54th 55th 56th 57th 58th 59th 60th 61st 62nd 63rd 64th 65th 66th 67th 68th 69th 70th 71st 72nd 73rd 74th 75th 76th 77th 78th 79th 80th 81st 82nd 83rd 84th 85th 86th 87th 88th 89th 90th 91st 92nd 93rd 94th 95th 96th 97th 98th 99th 100th

管内視察研修報告

豊岡市「中谷農事組合法人」

8月3日、兵庫県豊岡市の中谷（なかのたに）地区を訪問し、中谷農事組合法人の取り組みと、地域住民による「草刈り隊」の活動について研修を受けました。

農業は環境・地域・経済とリンク

約40年前の昭和63年（1988年）、中谷地区では、農業者の高齢化が進む中、個人で農業を続けることへの危機感から、全戸一致で集落営農組合を設立しました。

農家が田んぼを組合に出し、機械と専従オペレーターによる農作業体制を整えるとともに、大規模な圃



▲中谷農事組合法人担当者より説明を受ける農業委員・農地利用最適化推進委員



▲多種多様な生物が生息する水田はコウノトリの餌場でもある

場整備によって農地を大区画化。平成10年（1998年）には法人化し、現在では80haを超える農地を営営しています。

同法人では、農地を生産の場だけでなく、環境、地域、経済を一体として捉えている点が印象的でした。農薬を9割削減し、化学肥料を使用しない「六方銀米」を生産し、ネット通販による直接販売にも取り組んでいます。また、減農薬・無農薬農業によってコウノトリの餌となる生き物が生息できる環境をつくり、「コウノトリが舞い降りる地域で生産された米」というストーリーを販売にもつなげています。

三方良し！「草刈り隊」

今回の研修で詳しくお話を伺った



▲豊岡市は日本で最後の野生コウノトリの生息地としても有名

「草刈り隊」は、圃場の大区画化によるあぜ草刈りの負担や集落の高齢化を背景に、平成22年（2010年）に結成されました。30〜50代を中心とする約20名が参加し、法人の機械を活用して、従来1日かかっていた作業を約3時間に短縮。多面的機能支払交付金も活用し、時給を800円から段階的に2000円まで引き上げながら、全体としての労賃負担は削減しています。

南丹市には中山間地域も多く、地域によっては狭小な農地や斜面地もあるため、中谷地区の取り組みをそのまま取り入れることは難しい面があります。しかし、地域の課題を共有し、若い世代も巻き込みながら、人材・機械・資金を組み合わせ、地域農業を将来にわたって持続させる仕組みを築いてきた取り組みには、学ぶべき点が多くありました。

（取材：神澤 典子委員）

農作業時にクマに出会わないために！



クマは非常に嗅覚が良く、草刈機用のガソリンなど、揮発油も引き寄せる原因となるため、保管場所には十分注意してください。

農地に近い草むらや藪を刈り払い、クマの通り道や隠れやすい場所を減らすことも重要です。



クマが活発に行動する早朝と夕方の被害が全国的に増えています。ラジオなど常に音の出るものを携帯し近寄らせないようしましょう。



クマは学習能力が高く、エサ場を覚えて何度も来ることがあります。実ったまま果樹を放置しない、選果場に残渣を置かない、収穫物を置く場所に鍵をかけるなど対策をしましょう。



地元で活躍されている方や農業に関する取り組み、
また、日々の生活に密着したまち情報をお伝えします！

まちかど通信

え cafe笑みの扉 (園部町熊崎)



▲ライスバーガーランチ
ドリンクセット
バーガーの具材は日替
わりで2種類

園部町熊崎にライスバーガーのお店、「cafe笑みの扉」があります。古民家を借りて約1年半前にオープンしました。あまり手を加えず昔の民家そのままに、大正時代をイメージしたレトロな内装です。

ライスバーガーはご飯とご飯の間に具材を挟みハンバーガー感覚で食します。取材時は、分厚いだし巻き卵に明太子がミックスされ、卵の甘みと明太子の辛みがちょうど良く、大変美味しくいただきました。ライスの量も多く、一つ食べたからお腹がいっぱいになりました。季節野菜を使ったサラダ、煮物、スープ、ドリンクが付いて大満足です。お米は南丹市内産、野菜は自



営業時間：11:00～15:00
ラストオーダー：14:00
営業日：木～日曜日 不定休
TEL：070-5650-3680

家栽培を中心に使用。気分を変えてバーガー感覚でお米を食べるのも良いものです。店主こだわりのライスバーガーを食べに訪れてみてください。のぼりが立っている時は営業中ですが、念のため電話で確認を。友人との集まりやサークルなどでのランチにも利用できます。お店の隣では、木曜日限定で陶芸体験教室も開催されています。専門の先生に教わりながら、陶器を作ってみませんか。(取材：中井 剛委員)



▲大正時代の暮らしをイメージした店内

こだわりのお米バーガー

神吉のおくどさん (八木町神吉)



▲平飼卵かけごはんとお野菜たっぷりのお惣菜がうれしい「おばんざい定食」

炊きのご飯と美山町の平飼卵を中心に、地元野菜のおかずが並ぶ「おばんざい定食」1種類のみで価格は1000円(取材時の価格)。どこか懐かしい座敷で、湯気の立つ家庭の味をゆっくり楽しめま



▲黄色い壁が目印の古民家

国道477号、廻り田池を越えた神吉の集落にある「神吉のおくどさん」。築150年の古民家で、土・日曜の10時から14時ごろまで営業しています。メニューは、かまど

かまどが紡ぐ、あたたかな定食処



神吉のおくどさんInstagram QRコードとかわいいアイコン

(取材：小早川健一委員)

店主の吉田総子さんは、京都市内で20年以上看護師として勤務し、子どもたちの独立を機に神吉へ移住。現在も平日は訪問看護師として働き、週末に店を開いています。田んぼで米作りにも挑戦し、村の行事を優先するなど地域に根ざした暮らしを大切にしています。「予約制ではなく、ふらっと来ていただけたら」と吉田さんは話します。



▲懐かしい雰囲気のお座敷で食事を楽しめる

地域農業を 支える あの人この団体!

地域農業の発展を目指し、力強く活動する
団体・個人を紹介します。

のうえん ないとう農縁

内藤 正仁さん (園部町)

「農業で目指しているのは、無理なく続けられる経営です。そして、自分の経営を守るのは、地域の農地を守ることにつながります。」と話すのは、園部町船岡の内藤正仁さんです。



▶ないとう農縁内藤正仁さん(左)と
農業の協力者 田井さん(右)

船岡はJR船岡駅を取り囲むように広がる地域で、江戸時代には大堰川水運の拠点として賑わいました。

農業経営に生きるこれまでの経験

新規就農5年目を迎え、水稻約15ha(圃場数80)を中心に黒大豆やハウス春菊を栽培しています。また、作業受託にも取り組んでいます。京都府立農芸高等学校および京都府立農業大学校を卒業し、民間会社を経て就農するまでの14年間は園部町農業公社で、現在の農業経営の土台となる経験を積みました。公社では稲作の受託作業や生産

から米の検査、直販所での販売まで一通りの経験を得ることができたため、今の経営にかなり役立っています。

農業は次世代へ引き継ぐための地域との協働

公社で勤務を始めると、地域の方々から「田んぼを預けたい!」との声を多く聞くようになり、自家農業との兼ね合いから独立を考えるようになったといいます。独立してからは、地域の方々から田んぼを任せてもらえる関係づくりを図るため、地域の田んぼの貸



▲ドローンを見に来た小学生たちと



▲無理なく続けられる農業経営を目指してドローンも活用中



▲夫婦で協力して稲刈り中の一枚
内藤正仁さん(右)と妻の美香さん(左)

借を優先し、田んぼの管理には手を抜かず、地域組織の役をできるだけ引き受けるなどを心がけてきました。農業は「地域との関係を築き、次世代への継承を目指して協力していく仕事です。」とも語ります。

無理なく持続可能な農業を目指して

今後の課題としては、獣害対策や面積拡大と品質管理の両立、人材の確保、ライスセンターの整備などを進め、労働・土地生産性を高めることです。「無理なく続けられる農業経営と、それを支える生活の安定を目指したい。」と抱負を語っています。

(取材: 中井 順市委員)

利用状況調査・農地パトロールを実施

8月17日から26日にかけて、農業委員と農地利用最適化推進委員が、担当地域の利用状況調査及び農地パトロールを実施しました。調査筆数は利用状況調査464筆、農地パトロール491筆、合わせて955筆でした。調査では許可の内容通り適切に利用されているか確認するとともに、耕作放棄地や適切な管理が行われていない農地がないか調査しました。

この調査は、農地の利用状況の把握を行い、遊休農地の早期発見、解消に向けた取り組みを行うことを目的として毎年実施しています。調査にもとづいて、10月15日・16日に旧町ごとに担当地域の委員が各農地の状況について報告し、話し合いを行いました。

今後の遊休農地の解消に向けて、引き続き適切に管理をしていただくとともに、耕作が困難になる恐れがある場合は、担当地域の委員にご相談ください。



▲現地に赴いて一筆ずつ耕作状況を確認

地区別担当委員は農業委員会だより「なんたん」54号に掲載しています。下記QRコードからダウンロードできます！



豊かな老後生活のために!!
加入しませんか？

の う ね ん
農業者年金

国民年金に上乘せする公的な年金制度です

1. 農業者なら広く加入できる
2. 積立方式・確定拠出型で安定した年金財政
3. 保険料の国庫補助
4. 保険料は2万円～6万7千円まで千円単位で選択可能
5. 税制面で大きな優遇
6. 80歳までの保証がついた終身年金

詳しくは農業委員会事務局まで（連絡先：0771-68-0067）

京都府立農業大学校令和9年度の学生を募集します

収益性の高い京野菜の生産と経営を学び、農業に従事する意欲ある学生を募集しています。

- ◆募集人数 20人程度（推薦入学を含む）
- ◆出願資格 学校教育法に規定する高等学校若しくは中等教育学校の卒業者（令和9年3月卒業見込み）又は同等の学力がある者（年齢制限なし）

◆願書受付期間及び試験日程

- 一般入学試験（2回目）：
 - 受付期間 令和8年11月2日（月）～12月4日（金）
 - 試験日 令和8年12月18日（金）
- 一般入学試験（3回目）：
 - 受付期間 令和9年1月4日（月）～1月29日（金）
 - 試験日 令和9年2月12日（金）

問い合わせ先 京都府立農業大学校 森田
(0773-48-0321)



京都府立農業大学校ホームページ



@KYO.NODAI



農地利用最適化推進委員

八木 均さん
担当：美山町大野地区

美山町大野で四季折々の野菜を育てながら、地区の農事組合の理事として農地や水路などの集落のインフラの維持管理にも関わっています。農地利用最適化推進委員としての活動を通し、改めて地域における少子高齢化の進行や担い手不足といった問題を再認識しています。委員として地域の皆さんのお声を伺いながら、農地が無理なく活用され続けるよう相談や調整を進めていくよう努めたいと思っています。まだまだ学ぶことも多く、皆さまに助言をいただきながらの活動ですが、少しでも地域のお役に立てるよう努めていきたいと思っています。どうぞ気軽に声をかけていただければ嬉しいです。

農業委員 農地利用 最適化推進委員

を紹介します

農地の売り買い、貸し借りなど、農地に関する相談はまず担当地区の委員へ

農業委員

大沢 泰一さん
担当：日吉町五ヶ荘地区



これまで農業・農地を守り、ひいては農村の活性化を目標として活動をして参りました。移住促進はもちろん、新規就農者・若手農家の育成に力を注ぎ、農地所有者の皆様に耕作者の人間性や耕作意欲などを説明しご理解いただいた結果、現在は3名の若者に6haの圃場の耕作を任せております。地域の皆様のご協力に感謝申し上げます。

農地利用最適化推進委員

池上 尚隆さん
担当：八木町北地区



昭和生まれの世代は、実家や先祖代々の土地、家があり、それを引き継ぐことが当たり前のように感じられるところがあるかと思っています。私もそのような考え方で育ちました。時代の移り変わりとともに、経済状況の変化はライフスタイルや思考に大きく影響を及ぼしています。小規模な農家は、営農を維持することさえ厳しくなりました。まさに最適化すべきところですが、さまざまな壁があり思うように進まない状況です。米価が乱高下する中、外国産米に頼らずにすむよう、有益な情報をお伝えできればと思っています。



◀ 獣害防止柵設置

農業委員

藤田 孝一さん
担当：園部町元桐地区

JRを退職後、南丹市ならではの作物にチャレンジしたいと、黒豆、山椒、栗、そして自然薯を栽培しています。令和6年に農業委員となり、四苦八苦の連続でしたが、農地の大切さを学ばせていただきました。「出逢いは宝」であり、農家同士のつながりを大切にしながら、地域計画を考えたり、多面的機能支払交付金制度を導入したりと共に活動しています。上木崎町区には、耕作されていない保全管理地が多くありましたが、鳥獣害対策のワイヤーメッシュ柵の設置や農地の集積を図り、174・57aを稲作に転換。地域の助けもあり、黄金色の田園風景を取り戻すことができました。いつかみんなと旅行に行き、今までの労苦をねぎらいたいと思います。

地区別担当委員は農業委員会だより「なんたん」54号に掲載しています。下記QRコードからダウンロードできます！



なんたん**あっちこっち**

とにかく広い南丹市。

南丹市のあちらこちらで、地域ならではの魅力的な取り組みがされています。

そんな南丹市の、**あっちこっち**のできごとを紹介します。

名、そのふもとに神社を据えました。6月の誕生祭には全国から多くのぬいぐるみ愛好家が参列しました。秋にはぬいぐるみたちが安らかに眠れる「納めい堂」を附設する予定。拝殿や手水舎のデザインは代表の堀口氏、



▲手前にかわいらしい耳付きの鳥居、奥に茅葺屋根が美しい手水舎や拝殿などが建つ

美山町田歌集落から林道を少し入った所に「ぬいぐるみ神社」が創建されました。建立したのはぬいぐるみ病院等を運営する会社。愛着のある古くなったぬいぐるみの処分に悩む顧客の声に、それを納める神社を作ろうと計画。代表が訪れた田歌で人の縁から山林を購入し「いのちの森」と命

**美山の山あいの「ぬいぐるみ神社」**

Instagram
QRコード



▲かわい動物のチエーニアート

▶ 狛犬ならぬ「ぬい狛犬さん」と神主の「かんぬいさん」(中央)



屋根は地元の茅葺職人が手掛けました。可愛らしさ満載のユニークなものとなり海外の建築家からの反響を呼びました。世界で唯一といわれる、ぬいぐるみのための神社です。(取材…野口 則彰 委員)



▲緑豊かな「いのちの森」に地元の職人が手がけた茅葺の拝殿が映える

全国農業新聞 電子版 リニューアル!

スマートフォンやタブレット、パソコンで全国農業新聞をより読みやすくなるようインターネット上における情報提供を抜本的に強化します。



記事単位での閲覧に!
※紙面ビューアーでの閲覧も引き続き可能

読みたい記事を
キーワードで検索!

動画、電子版限定記事
などのコンテンツを
順次拡充!

地方版も網羅!

紙面購読者は無料!

紙面購読者の閲覧方法

- ①新規登録画面から新聞帯封に記載される9桁の購読者番号を入力
 - ②購読者番号が一覧後、名前とメールアドレス、パスワードを登録
- 登録後はメールアドレスとパスワードを用いてログインとなります。



月4回・毎週金曜日・午前0時配信
購読料: 月額 700円 / 年額 8,400円

お問い合わせ

一般社団法人全国農業会議所 新聞業務部

〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8

お申し込み

<https://shinbun.nca.or.jp/>

全国農業新聞

検索

**編集後記**

表紙写真について 八木町神吉でトマトやみず菜、九条ネギを栽培している綿井庸祐(わたいようすけ)さん。トマトはビニールハウス5棟(10.5a)で約2000本を栽培。3月下旬から準備を始め、7月から10月にかけて収穫が続きます。こだわりの肥料と地域特有の寒暖差を活かし、美味しいトマトが作れるよう努力されています。(川勝 芳明 委員)

地域の食と農業の情報紙『なんたん』

自慢の農作物・地域の積極的な取り組み・地元野菜の食べられるお店など、すてきな情報をお待ちしております。
農業委員会事務局 電話: 0771-68-0067

野八平神 田久 池鶴國小川 奥西中中 平湯
口木井澤 鶴世 上山府早勝 村村井井 野浅
則 典 昌善 尚昌博健芳 喜 久邦 順 清照
彰均隆子 子春 隆仁美一明 雄夫剛市 久夫

◆広報委員会